

(84) 茨城県常陸太田市の長谷鉾山

参考文献(1)、(2)を手引きに探査を行いました。滑石の採石場であったこの鉾山跡を、2011年5月頃に数回訪問をしていました。滑石ではそれほどの標本でもないと思い、また、現地の訪問も容易とも思い、探査記はまとめていませんでした。滑石に失礼をしていました。2014年になり、そのまま放置しておくのも惜しいのではないかと考え直し、探査記を書き上げるために、もう一度現地を訪問しました。

文献(1)の出版年は1977年、文献(2)の出版年は2008年ですが、現地の探査年は1985年です。共に大分昔における訪問記です。共に現地は採石場らしく、山の斜面が採掘されており、岩がゴロゴロとした荒々しいものであったことが書かれていますが、現在では、現地はほぼ自然に帰り、大きく太い雑木で覆われて鬱蒼としています。図3参照。なを、最新の地形図には、現地には未だ2つのガレ場記号が記されています。最新の地形図と言っても、数年内の現地の状況を記しているものではない場合が殆どであることは、留意しておいて損はありません。

現地への経路は次の通りです。常磐高速道を日立南太田ICで降り、293号に入り、常陸太田市に向かって進んでいきます。その後、道路はいろいろと入り組んだり、道路地図にない道路が幾本も新設されたりで、現地への生き方はいろいろコースがあるようです。が、その1つとして、里川を渡らずに、里川に沿った道路に乗って、田渡町へ行きます。その後、田渡公民館の所で、右折し、グラウンドスラムCCを東西に横断している道に入っていきます。道通り、東に向かって進んでいきます。沢に架かっている橋に行き着きます。その先はT字路になっており、左側の林道が長谷鉾山への道です。が、ゲートがあり、車両の通行禁止となっています。この付近に駐車して、歩くこととなります。

ゲートから幅の広い林道を約30分ほどで、周りの開けた現地に行き着きます。参考文献(1)を手引きにすれば、現地近傍の地質の勉強になりそうですが、やはりそれなりの玄人と一緒になければ、分からないでしょう。

雑学。滑石鉾石の主たる用途は、農薬の増量剤なそうです。参考文献(1)によれば、滑石を蠟石とか温石とも地元では呼ぶそうです。採集した滑石は表面はロウのように滑らかで、爪でも傷が付くような硬度です。また、触ると少し暖かなような気がします。

探査日 2011年5月、2014年5月

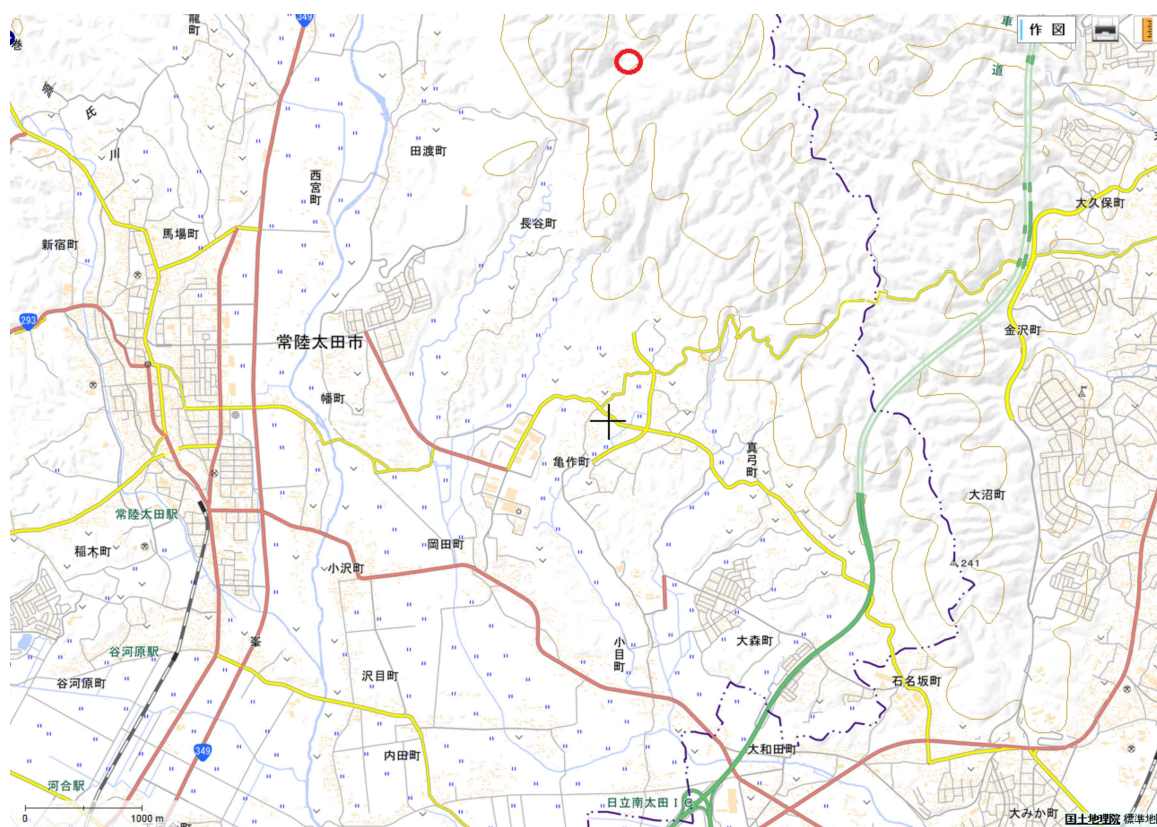


図1 国土地理院の地図サービスより複写掲載。常陸太田市中心部から北東方向、図中の中央上部に記した赤丸あたりに長谷鉾山がある。

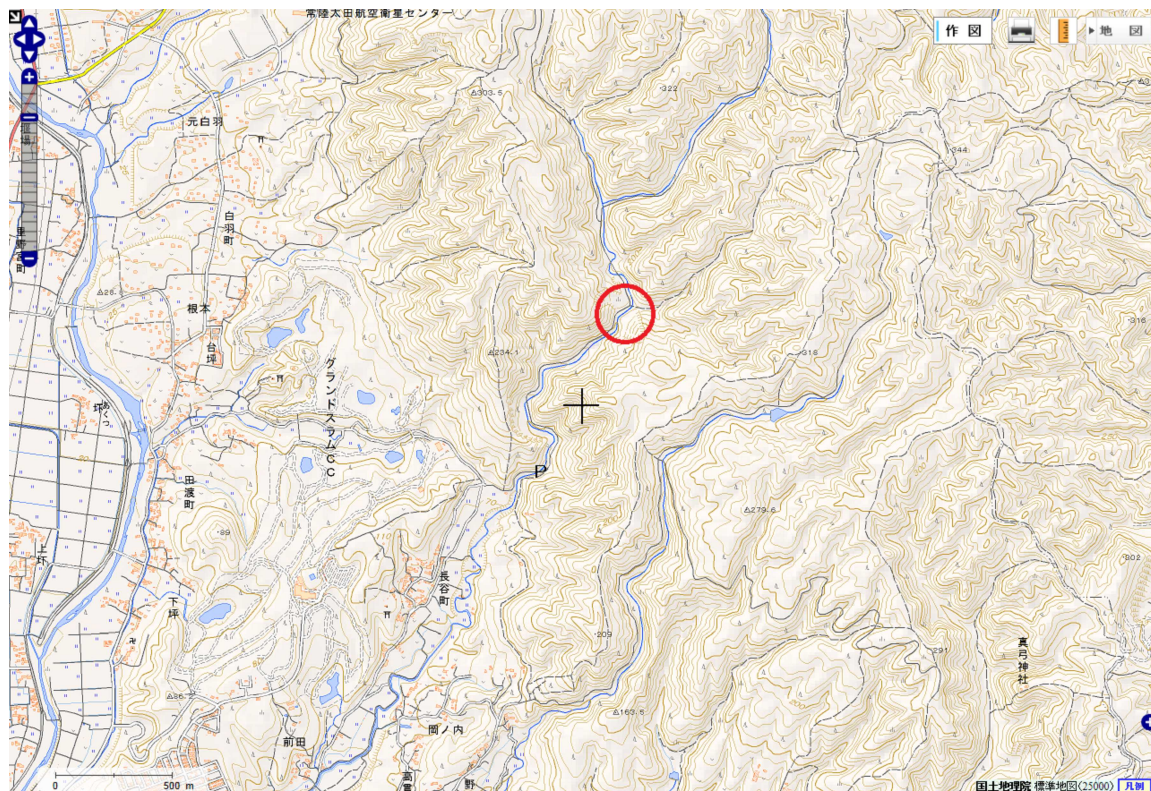


図2 図1の部分の拡大図に相当。赤丸が現地。南の長谷町を経由しての現地へのルートも考えられるが、道が入り組んでいて複雑である。グランドスラムC Cを東西に横断しているルートがおすすめである。文字Pは車の駐車場所。

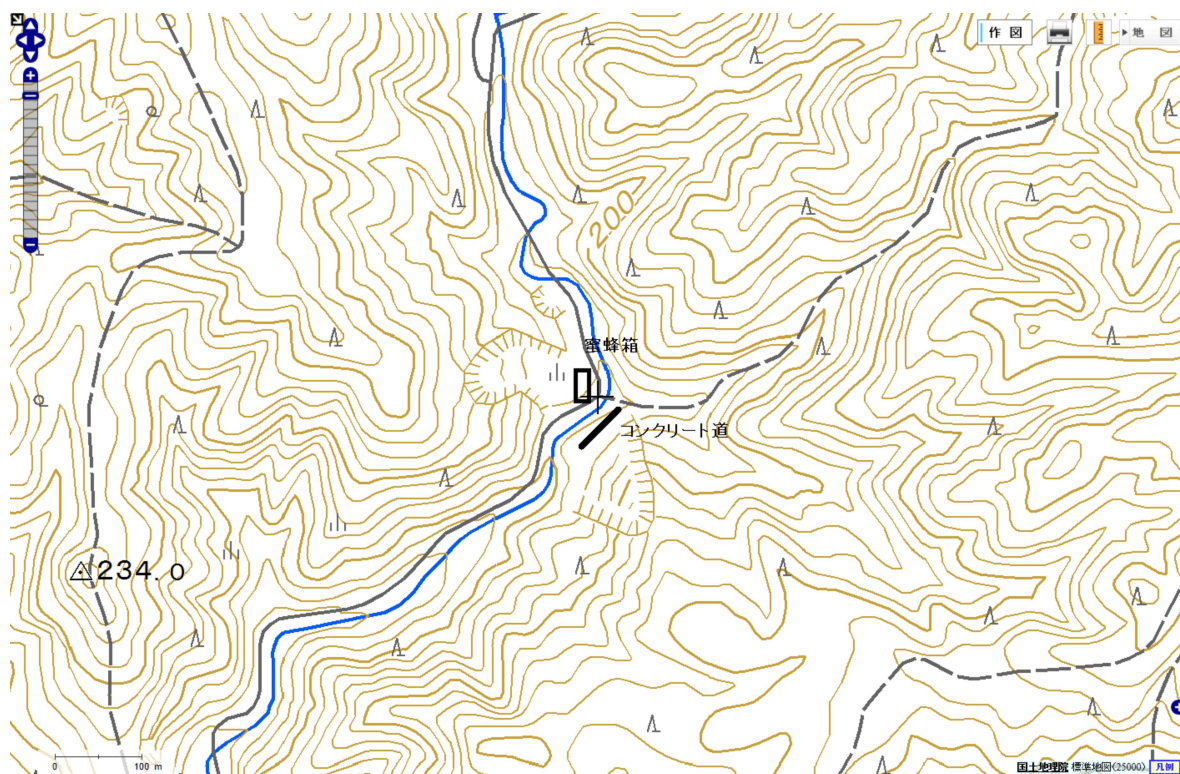


図3 図2の更なる拡大図。川を挟んで両側にガレ場がある。長谷鉱山の採石場跡である。現在では、林道に立って周りを見回してもガレ場であったことは殆ど分らない。自然に戻っている。

鉾山跡写真



写真1 田渡町を里川に沿って北上してきた。先の左に公民館。先の右側に右折し、ゴルフ場内を横断している道に入っていく。

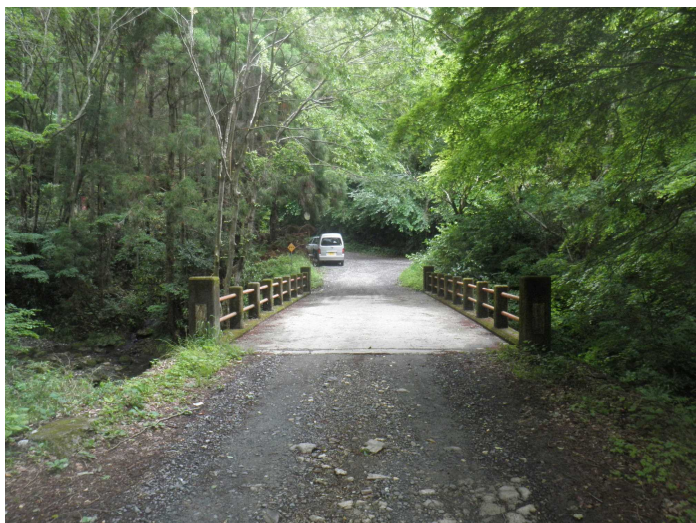


写真2 東に向かって道なりに進んでくると、この橋に出会う。橋を渡った、前方左側が長谷鉾山への道。直ぐにゲートがあり、3年経過しても未だに車の進入禁止。写真3参照。この付近に駐車する。



写真3 ここから徒歩で約30分で現地。



写真4 現地の林道で、西方面を見ている。手前の平地には蜜蜂箱。その向こう側は長谷鉱山のガレ場だった山の斜面。木々が鬱蒼と再生している。かつては採石鉱山のガレ場であったとは、一見して全く分からない。このあたりに適当に滑石は転がっている。



写真5 現地の東側のガレ場への手前には、コンクリート道が残っていた。鉱山施設の跡と思われる。

鉱物写真

なし。

参考文献

- (1)「地学のガイドシリーズ3 茨城県 地学のガイド 茨城県の地質とその生き立ち」、大山年次、蜂巢紀夫、1977年、コロナ社
- (2)「鉱物観察ガイド」、松原、加藤、千葉、宮脇、2008年、東海大学出版。